
僕の彼女

草野悠次郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の彼女

【Nコード】

N9547B

【作者名】

草野悠次郎

【あらすじ】

僕は彼女と付き合うことになって…

（前書き）

（ ） （ ） （ ） はじめまして。草野です。

初めて書くので緊張しました。（汗）

僕と彼女の出会いは部活だった…

最初は『なんだこいつ?』と思ったがだんだん好きになっていった。

いや、惹かれていった、と言った方がいいかもしれない…

2月×日

今日、彼女に告白した。とても、緊張した。

2月 日

彼女からの返事はまだ来ない…

「フラした」この言葉が頭の中をぐるぐる回る

3月〇日

彼女からの返事来ないまま3月になってしまった……が！

今日ついに、ついに！彼女からの返事来る！

僕は校舎裏に呼び出された。

『えっど…』

……。

会話が…続かない…

「いいよ」

『え?』

「付き合っても…」 『本当!?!』

ついに、ついに!彼女は僕のモノに!……

次の日から部活以外で僕に笑顔を見せなくなった…

3月 日

今日は部活の日

彼女の笑顔が見れる日!

部活は週に二回月曜日と金曜日。

今日は金曜日だから、明日は会えない。

やっと彼女と会える!ウキウキ気分で部屋に入ると彼女が……

いない?

『ねえ、あいつは?』

「あ、今日は吹奏楽部に行くって言ってましたよ」

彼女は吹奏楽部とこの部活を両方とも出ている。だから、こっちを出ないこともしばし…

『あ、そう…』

あーあ。この土・日がかつたるい…

彼女の笑顔が元気の源だったのになあ…

3月…日

今日は休日。

デートぐらいした方がいいのかなあ？

…。

そういえば…あいつ、今日コンクールだったけ？

8月 日

今日は初デート…！

と…いつでも部活のみんなで近くの神社のお祭りに行くこと。

まあ良しとするか…。

窓に目を向けると…雨………………？

あめ？ 雨…！！！！

携帯の着メロが鳴る

「今日、吹奏楽部があるし、雨降ってるから行かなくていいよね」

* ^ ^ ^ *

彼女からのメール…

嬉しそっだなおい…。

それとは裏はらにこっちは雨降って最悪だよ…

お前に会いたいよ…

僕は今日来る予定の奴らに「今日中止」というメールを出した。

彼女がかなければ今日行く意味がない…

8月×日

今日は僕の家の近くの商店街で盆踊りに彼女と一緒に行くことになった。

初の初デート!!!

祈るような気持ちで僕は待ち合わせ場所に行った。

彼女はまだきてない。

…。

やっぱり…。

あきらめかけた時。

「ごめん！遅れた！」

彼女の声が僕の耳をくすぐる。

来た!!!!!!

「本当はね五分前に来ようと思ったんだけど…」

『そっか…』

来てくれるだけで嬉しいよ。

これを言いたいのにも口が開かない…

「すごいねー」

『うん。』

会話が…会話が続かない!

『お腹すいてない?』

「え?」

『いや、なんでもないよ』

素直じゃねえ。(怒)

「お腹…すいたかも」

…えっ。

『じ、じゃあ、そのコンビニで割り勘しない？』

「いいよー」

久しぶりに見せる天使の笑顔

僕達は近くのコンビニでお茶とポテトを買って店の前でそれを食べた。

楽しかった。幸せだった。

だけど…時間は波のように過ぎていく。

「じゃあねー」

『うん。じゃあ。』

彼女も僕も、今日の時間を名残惜しそうに手を降って別れた。

8月5日

好きだ。お前のことが…大好きだ

盆踊りが終わって次の日僕は唐突彼女への思いが爆発した。

ホームシックならぬ彼女シックだ…。

彼女に会いたい！

その思いが僕を奮い起こす。

8月10日

迷惑かもしれない

子機を耳にあてながら思った。

しかし思ったところで何が変わるといっただ何も変わらない。

僕は今、彼女に電話をしているところだ。

「ハイ、もしもし？」 『あ、僕だけど…』

沈黙。

「あーあー！ごめん！きずかなかった！ごめんねー！」

『いや、こつちこそ、名乗らなかったし…』

「アハハ、で、なあに？」

『え？ああ、うん。えっと…』

ただ、彼女の声が聞きたかったただだから話しの内容は考えていなかった。

『今度の部活さあ』

話したくもない部活の話…

彼女は嫌がりもせず相づちを打って僕の話聞いてくれた。

『うん。それだけだから…じゃあ。』

話が一通り話終わって子機を耳から離れた時彼女の声が出た。

「待って！」

『何？』

「あー…あのね…言いにくいんだけど…私…ね、F組の子から告白されちゃってね…」

………えっ！……… 「相手は期待してないって言うてるから、お願いします。ともごめんなさい。とも言っていないんだ…。」

想像もしないこの状況。

しかし、この決定権は彼女にある。

『そっか…。』

「うん。」

『お前の好きな方でいいよ。大丈夫。』

「…。そう?」

『うん。』

「…そっか。じゃあね!」

『うん。じゃあ。』

電話を切った後で僕は絶望にくれた。

9月 日

F組の奴に聞いた話では、彼女は告白した奴をフツたらしい。彼女はそのことについては、何も話してくれない。

しばらくしてから彼女が別れようとメールが来た…

僕は彼女を憎らしく思った。

彼女は今、F組の奴と付き合っているという噂を聞いた。

僕は今度付き合う時は女に気をつけようと思った。

(後書き)

(. .) くどうも、草野悠次郎です。ガタガタですいませんでした(汗)

今度はもっとまとまった文にしようと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9547b/>

僕の彼女

2010年10月26日13時53分発行